

老中松平忠固と生糸貿易研究会主催、明倫会共催の調査研究発表大会
『上田藩主にして徳川幕府老中 松平忠固と上田藩の人びと』

布施 修一郎(6組)

私が会長を務める上田松平藩ゆかりの子孫や上田松平藩に関心のある有志らでつくる明倫会では、この10年間上田松平藩第六代藩主松平忠固公に関するトークセッション、パネルディスカッションなどを行ってきました。今回の内容は添付のチラシの通りです。

明倫会の見解として忠固公は

1. 日本を開国させた人
2. 当初の日米修好通商条約の関税を日本に有利な条件とした人
3. 生糸輸出貿易を始めた人

であるとしても良いのではないかという考えのもと、作品社の「日本を開国させた男、松平忠固」の著者である拓殖大学の関良基教授、東京の会社社長でアマチュア歴史家の忠固公研究家 本野敦彦氏の協力を得ながら事業を展開してまいりましたが、学術的背景が乏しく、少しは注目されてきてはいるものの今一つ認知度の向上に繋がっていませんでした。

2022年より歴史専門家の東洋大学岩下哲典教授ら18名が『老中松平忠固と生糸貿易研究会』を立ち上げ、その研究者らにより上田博物館にある、上田松平藩の古文書などの解読を手掛け、本年の7月に『幕末の老中 松平忠固 政治・生糸貿易・上田藩』という論文集が上梓されました。まだ、古文書の一部だけの解読が済んだ状態ではありますが、幾つかの新事実が発見されてきております。今回その、論文集の内容に沿った、冒頭タイトルの研究発表会が明倫会共催のもと開催されることになりました。

上記の、1、2、はともかく3、の生糸貿易に関しましては忠固公なしでは語れないのではないかという結論に向けての研究の発表会が、一般の方々にもわかりやすい形で開催されます。また、忠固公を中心とした周辺には、赤松小三郎、中居屋重兵衛など何人もの重要人物の存在が目玉となり、また、忠固公の子供でありアメリカに留学した、忠礼、忠厚の存在も興味深い話であり、それらの人々についての報告もあります。とくに、忠固公が強く関連したと思われる生糸貿易は戦前までの上田の繁栄、全国各地への影響の大きさには大いに注目したいものでありますのでご興味のある方、同期の方々にも聴講して頂きたいと思っております。

2025年9月5日記